

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

ドルと円は綱引き状態 (P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 田中 春菜

来週のドル円予想レンジ **104.50 ~ 106.00**

りそなWEEKLY COLUMN

為替ディーラーの視点 悩ましい為替の動きの背景

(P3)

りそな銀行 市場トレーディング室
森脇 考也

- 「経済指標や重要なニュースがないにも関わらず、大きく為替が動いたな」と感じることはありませんか？
- 説明のつかない為替の動きとして①実需動向②テクニカル分析③投機筋動向④人間の恐怖に注目

2020/10/19

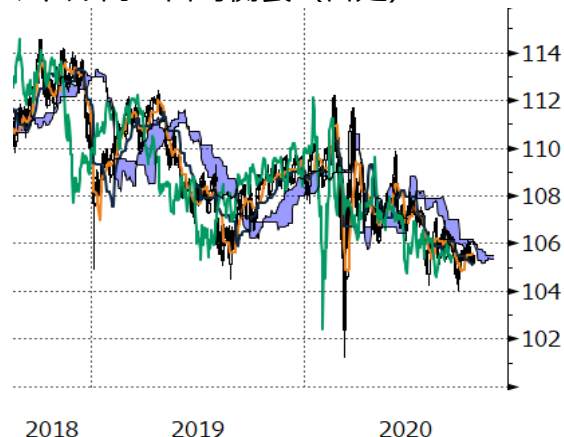
りそな外為レポート

ドルと円は綱引き状態

来週のドル円予想レンジ **104.50 ~ 106.00**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

先週よりマーケットは少しずつ、マイナス材料を織り込み始めた。米追加経済対策について、選挙前の合意は難しく不透明感が増す中、米製薬大手企業2社が開発中の新型コロナウイルスワクチン治験を安全性の問題から停止させたほか、欧米を中心に新型コロナウイルス感染の再拡大懸念が広がりつつあり、リスク回避の動きが意識されている。また英国と欧州の間で行われている通商協議も難航している事から、英国の合意なき離脱のリスクが再燃し、ドル円の上値を重くさせた。今週は引き続きマイナス材料を払拭できるかどうか注目が集まるであろう。新型コロナウイルスの感染再拡大による経済活動の停滞が懸念される中、今週も米中の主要経済指標の発表を控えている。また、22日には2回目の米大統領候補者テレビ討論会が予定されており、政治・経済ともに不透明感が強まっている中で、プラス材料が出てくれば、ドル円も再び106円台に向け上昇すると思われるが、現状ではリスクオフをおり込み、ドル買い円買いが優勢と思われ、ドル円はもみ合いを予想する。(カスタマーディーラー 田中春菜)

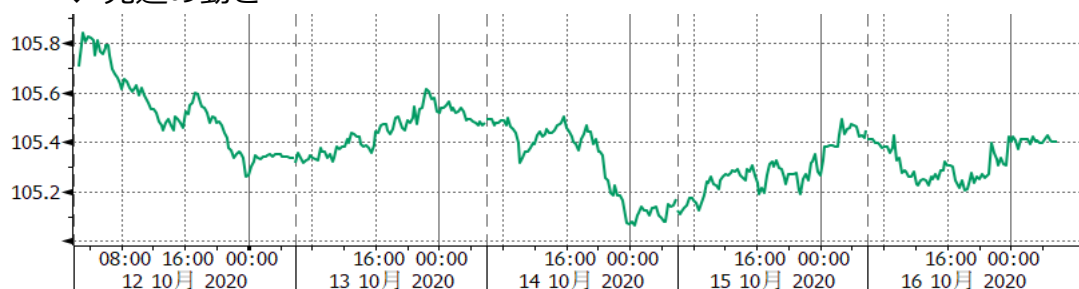
◆今週の日程

19日(月) 日 9月貿易統計	21日(水) 米 米地区連銀経済報告
19日(月) 中 20/3Q GDP	22日(木) 米 9月中古住宅販売
19日(月) 中 9月生産・小売・投資	22日(木) 米 大統領候補の第三回テレビ討論会
20日(火) 米 9月住宅着工・許可件数	23日(金) 日 9月CPI
21日(水) 米 20年国債入札	23日(金) 欧 10月PMI

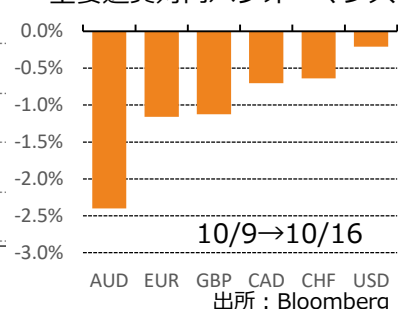
◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 10月16 (金) 105.40円 VS 10月23日 (金)

東京										大阪			埼玉				
井口	中根	石川	湊	小新	鳥井	田中	中里	伊藤	村永	小林	鈴木	武富	上野	小林	津田	石井	佐藤
↓	↓	↓	↑	↑	休	↓	休	↑	↑	↓	↓	↑	↑	↓	休	↓	↑

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2020/10/19

りそな WEEKLY COLUMN

為替ディーラーの視点 悩ましい為替の動きの背景

- 「経済指標や重要なニュースがないにも関わらず、大きく為替が動いたな」と感じることはありませんか？
- 説明のつかない為替の動きとして①実需動向②テクニカル分析③投機筋動向④人間の感情に注目

りそな銀行 市場トレーディング室
森脇 考也

悩ましい為替市場の値動きの背景

私はインターバンク市場の為替ディーラーをしています。為替ディーリングを行っている身として、夢に出てくるほど為替の動向は毎日注視しているのですが、読者の皆様も時々「経済指標や重要なニュースがないにも関わらず、大きく為替が動いたな」と感じる時がありませんか？

私自身、そのような時は朝自宅でチャートやニュースを確認し、入社後も要因を血眼で探します。結局原因がよく分からず、正直諦めることもあるのですが、そのような時には以下のような4点を手掛かりに原因を突き止めようと心がけています。読者の皆様のなんらかのヒントになればと思い、それを紹介させていただきます。

トレンドが出る実需動向

①実需動向（企業の貿易輸出入の決済）

実需と投機との大きな違いとしては、投機であれば「反対売買」をすることで損益を確定するので、一時的に相場が大きく動いた後、反対売買によって戻す動きがあります。一方、実需の売買は、片道売買のため、戻す動きがなく、一方向への動きが強く出てチャートが走り抜けてしまうこともあります。また、企業が為替取引を行いたい為替水準は、社内レートで採算がとれる水準や1円の大台が変わったところで実需の取引が活発になります。銀行が市場でカバー取引として、元の水準に押し戻す動きがでるので、注目しています。

テクニカル上の攻防

②テクニカル分析（為替チャート）

テクニカル分析は様々な手法があり、かつ、チャートの時間軸等の設定をカスタマイズもできるので多岐に渡りますが、特に正解不正解がないので難しいところです。チャートは全世界の市場参加者が作り出した取引の軌跡であるため、大いにヒントになると思っています。そのため、チャート通りに為替レートが上下の動いてくると人々はそれに安心して、ディーリングを行います。そこで、油断しているときに、チャートと異なる動きを作り出すことで、参加者が慌てて、その動きに流されます。テクニカルライン上で売買が活発になるとそのラインを突き抜けようと攻防が繰り広げられているかもしれないので、そのサインを探しています。



2020/10/19

りそな WEEKLY COLUMN

突発的な投機筋の 仕掛け

市場参加者のパニック 的な動き

③投機筋動向（ヘッジファンド等）

ヘッジファンドは非常に大きな資金力があるため、市場参加者の協力なく、自ら大きな流れを作りだすことができます。そのため、マーケットの薄い時間や他の市場参加者の損切りが多く置かれているところを目がけて仕掛けてきます。周囲に気づかれずに、突如行うので、更にインパクトが大きくなります。私も含め市場参加者が確信を持って取引を行うときほど、逆の動きをされる可能性もあるので、少し期間の長いトレンドも見ること、突発的な動きに対処できるように準備をします。

④人間の感情（恐怖）

同じようなレンジ内でもみ合い相場が続いていれば、大きな利益をあげることは難しいですが、大きな損をすることもありません。そんな時に突発的なニュースで従来と異なる値動きが始まると、市場参加者はパニックを起こし、恐怖から水準感を無視してでも反対売買を行って資産を守ろうとする心理が働き、為替相場が大きく動くことがあります。一方で、パニックはすぐに収まり、戻してしまうことも多いため、パニック的な動きが広がっている時にこそ、しっかり原因を見定め、勇気を持ってポジションを取ることが収益チャンスとなることもあります。

もし今後、為替が大きく動き、経済指標や重要なニュースがないときには、以上の4つを頭の片隅に思い出しただけであれば幸いです。その他の要因もちろんあり、完全には突き止めるのは難しいですが、私も諦めずに要因を必死に探して、良い夢を見られるように頑張ります。

余談ですが先日、夢の中で、ある通貨ペアのチャートが思い浮かび、即座に思ったことが「くそっ！負けた！！」でした。スマホでその通貨ペアを確認すると、夢の中ほど負けていませんでした。しかし、翌日の午後には夢が現実となって夢で見たチャートの道筋を辿り、結局夢の中以上に負けました。振り返って考えると、あの夢は神様から注意するようにとのお告げだったのかもしれませんが、不覚にも無視してしまいました（神様ごめんなさい）。

